

公立大学法人 大分県立看護科学大学

中期目標期間（平成30年～令和5事業年度）の
終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績
に関する項目別評価（大項目評価）及び全体評価

令和4年7月

大分県地方独立行政法人評価委員会

中期目標期間の終了時に見込まれる中期目標期間の業務実績

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、24項目の全てがIV（上回って実施している）の評価であること。
- ②学部教育に関するカリキュラムおよび養護教諭養成課程の教育について評価、改善を中期目標期間中に行ってきており、令和5年度までに4年間の看護師基礎教育のモデルの評価・改善および養護教諭(一種免許)養成課程の評価・改善する目標が達成できる見込みであること。
- ③COVID-19 感染予防対策の必要性もあり、学習環境の ICT 化が予定よりも早いペースで進んでおり、e-ラーニング等の教材を活用することで学生の情報処理や看護技術の力は高まっていることに加え、令和4年度には実習室の IT デジタル化を更に充実する予定であり、学生の自己学習能力を高める支援の目標が達成できる見込みであること。
- ④学生が主体的に学べる教育環境の整備により、学生の看護師国家試験合格率 100%を継続していること。また、学部生の県内就職は 50%を超え、増加傾向にあること。
- ⑤看護系教員による実験的研究、地元企業や海外の大学との共同研究、特許の取得が増えている。また、知的財産管理システムを整備し、教員の研究シーズを公開した。以上の点から、今後益々、民間企業との共同研究や特許申請が期待され、中期計画の達成は十分に可能と考えられること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 教育の内容及び到達目標
- ・令和5年度までに4年間の看護師基礎教育のモデルの評価・改善および養護教諭(一種免許)養成課程の評価・改善する目標を達成できる見込み。
 - ・修了生の追跡調査等の結果を活用してカリキュラム等の見直しが進んでおり、COVID-19 感染拡大の中でも特定行為研修は継続できている。
 - ・在学生や修了生の意見を取り入れながら、各種事務手続きの電子化、講義や研究報告会、大学院説明会等のオンライン化を実現し継続している。
 - ・学生が主体的に学べる教育環境を整備することで、学生の看護師国家試験合格率 100%を継続している。
- 教育の実施体制

- ・優秀な学生の確保に向けた活動を積極的に実施し、看護水準の向上を進めている。
 - ・COVID-19 感染予防対策の必要性もあり、学習環境の ICT 化が予定よりも早いペースで進んでいる。
 - ・近年の自然災害の増加や COVID-19 の感染拡大により保健師の需要が増したこともあり、長年の目標であった大学院広域看護学コースの増員が予想よりも早く実現した。
- 学生等への支援
- ・学生の自己学習能力を高めるための支援として、IT 化を進めており、e-ラーニング等の教材を活用することで学生が情報処理や看護技術の力を高めている。令和 4 年度には実習室の IT デジタル化もさらに充実する。
 - ・学部生の県内就職は 50% を超え、増加傾向であり、中期目標は達成可能と考えられる。
- 研究の方向
- ・看護系教員による実験的研究、地元企業や海外の大学との共同研究、特許の取得が増えている。また、知的財産管理システムを整備し、教員の研究シーズを公開した。今後益々、民間企業との共同研究や特許申請が期待される。
- 研究の実施体制
- ・大学が推奨している保健・医療・福祉の分野における基礎的研究、特に理工学的実験研究が増えており、地元企業との共同研究や特許取得も出てきている。
- 地域社会への貢献
- ・研究支援を希望する医療施設が増加している等、徐々に地域に評価されてきている。
 - ・毎年、多くの教員を大分県及び県内市町村の保健医療福祉政策に係る組織に委員として派遣しており、また、令和 3 年度は大分県が健康寿命日本一を達成した。
- 国際交流の推進
- ・COVID-19 感染拡大の中でも、オンラインで海外の大学と国際交流を継続し、学部生も参加している。
 - ・看護国際フォーラムは Zoom を活用して継続しており、また、学生の海外研修プログラムを既に令和 4 年度に立ち上げた。
- 産学官連携の充実強化
- ・シーズ集は既に令和 4 年度にホームページにアップし、知的財産管理システムも確立した。企業との共同研究が増え、特許取得もある。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
教 育	12				12
研 究	4				4
社会貢献	8				8
合 計	24				24

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 看護師国家試験合格率 100%は定着。今後とも 100%の合格率の達成をお願いしたい。
- 県内就職率 50%越えの流れを引き続き定着させていただきたい。
- 地域社会への貢献は大きい。地域からも評価されており、中期計画の達成は問題ない。
- 全国に先駆けた NP の取り組みは、令和 3 年度までに 69 名が修了し、管理者として活躍されて、高い成果をあげられていることは素晴らしい。
- 令和 5 年度までの中期計画へも Zoom を活用しながらの積極的な情報発信が反映されており、中期計画を十分達成しうる。
- 平成 30 年度以降の取り組みを進める中、令和元年度には入試の改正を実施した結果、入学生の退学が減少。このような改正に加え、学部及び大学院全体の定員を社会情勢に応じて都度に適宜見直してきており、教育環境整備の根幹がしっかりと検討されていると高く評価しうる。とりわけ令和 3 年度の見直して、令和 4 年度より広域看護学コース定員を 5 名増やして 10 名とし、担当教員 1 名を増員。そのうえで大分県医療政策課と連絡相談を進めながら教育環境の整備に努めている。令和 5 年度までの中期計画もコロナ禍による感染拡大が保健師の需要を増したおり、本学長年の目標であった大学院広域看護学コースの増員が予想よりも早く実現したことで、中期計画はほぼ達成できた、と自己評価に至っている。

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、11項目の全てがIV（上回って実施している）の評価であること。
- ②学長を兼ねる理事長が、引き続き強いリーダーシップを発揮し、教員や学外理事等の意見を取り入れ、学内の了解を得ながら改革を推進していること。
- ③調査によるエビデンスに基づいて、業務内容・人員配置を評価し、組織改革に取り組んでいること。
- ④教員評価は教員の意見を取り入れて継続的に改善しており、大学固有職員の評価も開始し、昇任人事に活用していること。
- ⑤平成30年度に新設したFD/SD委員会がFD研修会の企画及び他団体が企画したFD研修会の周知を積極的に取り組んでいること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 運営体制の強化
 - ・学長を兼ねる理事長が、引き続き強いリーダーシップを発揮し、教員や学外理事等の意見を取り入れ、学内の了解を得ながら改革を推進しているため、中期計画の達成は可能。
 - ・エビデンスに基づいて「2030年に向けた本学の課題と解決策」を打ち出し、教員の負担の平等化や新しい研究室の設置等を進めた。
 - ・理事会や経営審議会、監査や外部評価の意見も参考にして、合理化や組織のあり方を定期的に見直している。
- 人事・労務管理の適正化
 - ・調査によるエビデンスに基づいて、業務内容・人員配置を評価し、組織改革に取り組んでいる
 - ・教員評価は教員の意見を取り入れて継続的に改善しており、大学固有職員の評価も開始し、昇任人事に活用した
- 開かれた大学運営
 - ・在学生や卒業生・修了生に調査をしたり、実習施設や地域等の意見を重視し、指摘に対しては迅速に対応したりしている。
 - ・専門性の高い大学固有事務職員を育成するために、設置団体への研修派遣や外部団体の主催する研修会にも参加している。

○人材の育成

- ・平成 30 年度に新設した FD/SD 委員会が FD 研修会の企画及び他団体が企画した FD 研修会の周知を積極的に取り組んでいる。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
運営体制	5				5
人事の適正化	6				6
合 計	11				11

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

- ※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 理事長・学長が強いリーダーシップを発揮されて業務運営の改善がなされており、中期計画の達成は問題ない。
- 理事長のリーダーシップのもと全教職員で 2030 年に向けた課題への取り組みをしていることは素晴らしい。
- 平成 31 年に設立した「未来応援基金」の活用を期待する。
- 令和 4 年度には認証評価の受審が予定されるが、各種のエビデンスに基づいて「2030 年に向けた本学の課題と解決策」が打ち出された結果、教員の負担の平等化や新しい研究室の設置等が進められており、令和 5 年度までの中期計画の達成が十分見込まれる。

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、10項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②令和3事業年度終了時点で授業料等の滞納はなく、納付が遅延している学生がいる場合には助言や指導を行い、分割等計画的な授業料納付に導く等の取組を継続することで、中期計画の達成を見込んであること。
- ③科研費申請の学内研修会の実施、外部資金公募情報の周知、レビュアーによる指導等により、4千万円以上の外部資金を獲得できており、継続して外部資金獲得促進に取り組むことで、中期計画の達成を見込んでいること。
- ④契約にあたっては複数年度化や、プロポーザル式入札の導入等により競争的環境の確保を図っており、引き続き契約内容の点検、契約期間の見直し、複数年度化等の対策に取り組むよていであること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己収入の確保
 - ・令和3事業年度終了時点で授業料等の滞納はない。納付が遅延している学生がいる場合には助言や指導を行い、分割等計画的な授業料納付に導く等の取組を継続する。
 - ・新型コロナウイルスの感染拡大により令和2年度の貸出実績は25件であったが、令和3年度は感染状況を見ながら貸出を行い95件と増加、引き続き感染状況に応じて貸出可能時期を適切に判断しながら、大学ホームページで積極的に情報発信を行い、利用促進を図る。
- 外部資金の獲得
 - ・科研費申請の学内研修会の実施、外部資金公募情報の周知、レビュアーによる指導等により、4千万円以上の外部資金を獲得できており、継続して外部資金獲得促進に取り組む。
- 経費の効率化
 - ・中期目標期間1年目(H30年度)に比べコピー代が令和3年度は4%減少している。引き続き、両面コピーやミスコピー用紙の再利用の徹底等によりコスト意識の涵養に取り組む。
 - ・今後も継続し省エネルギーに関する意識向上や料金プランの適宜見直し等を行い、水道光熱費等の削減を図る。
 - ・契約にあたっては複数年度化や、プロポーザル式入札の導入等により競争的環境の確保を

図っており、引き続き契約内容の点検、契約期間の見直し、複数年度化等の対策に取り組む。

○資産の適正管理

・金融機関の金利や格付け機関からの評価の動向に注視し、安全で適正な資金管理を行っている。

○資産の有効活用

・中期計画期間（H30年度～令和3年度）において計7回「看護科学研究」を発行している。今後も継続して年2～3回発行する予定。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己収入及び外部資金の獲得	3			1	2
経費の効率化	3			1	2
資産の適正管理・有効活用	4			1	3
合計	10			3	7

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○中期計画の達成は問題ない。

○外部資金の獲得、経費の効率化などを通じた財務面の改善については引き続き努力していただきたい。

○継続して、外部資金の獲得ができていることは評価できる。

○令和2年度からの新型コロナウイルス感染拡大を受けやむなく一時中止を余儀なくされたが、今後も感染状況に応じて貸出可能時期を適切に判断、大学ホームページで積極的に情報発信を行い利用促進に臨むところから令和5年度までの中期計画の達成が見込まれる。

IV 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、5項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②機関別認証評価結果、自己点検ポートフォリオや年報を活用して、各種委員会等の活動の評価と更なる見直しを適切に実施する予定であること。
- ③令和4年度に機関別認証評価を受審し、その結果を大学ホームページに公開する予定であること。
- ④大学ホームページや公式 Facebook 等、インターネットを活用した情報発信の内容を充実させ、継続する予定であること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 自己点検及び自己評価の充実
 - ・機関別認証評価結果、自己点検ポートフォリオや年報を活用して、各種委員会等の活動の評価と更なる見直しを適切に実施する。
 - ・令和4年度に機関別認証評価を受審し、その結果を大学ホームページに公開する。
- 情報公開や情報発信の推進
 - ・基本的な法人情報や理事会等の議事概要の公開を継続する。
 - ・大学ホームページや公式 Facebook 等、インターネットを活用した情報発信の内容を充実させ、継続する。
 - ・年2回の広報紙発行、大学パンフレット、大学ホームページ等で情報発信を継続する。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
自己点検 ・自己評価	2				2
情報公開 ・情報発信	3			2	1
合計	5			2	3

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

○中期計画の達成は問題ない。

○大学の教育研究活動の状況や活動成果を大学ホームページで定期的に情報発信し公開する際、情報発信の内容をより充実させ、利用者からの意見や質問をフィードバックさせる本学と利用者とのQ and Aのようなサイトの充実や主要記事の外国語化（主に英語、可能なら姉妹校を有する外国語へも発展）等へ積極的に取り組むことで、中期計画への達成ならびに持続的な成長発展を期待したい。

V その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価結果	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	------------------	--------------------

(2) 判断理由

- ①小項目評価の集計結果では、8項目の全てがⅢ（順調に実施している）又はⅣ（上回って実施している）の評価であること。
- ②図書館蔵書は中期計画期間（H30年度～R3年度）において合計7,080冊を整備しており、引き続き委員会及び学生リクエストにより蔵書を整備していく予定であること。
- ③令和元年度に防災・業務継続計画（BCP）の策定、危機管理マニュアルを改訂し、それらに基づき必要な体制を整備していることに加え、防火訓練を毎年実施しており、これを今後も継続していく予定であること。
- ④毎年ハラスメント研修会、人権研修会を継続して開催しており、引き続き開催する予定であること。

【参考：大項目評価にあたり勘案した事項】

- 施設・設備の整備と活用
- ・図書館蔵書は中期計画期間（H30年度～R3年度）において合計7,080冊を整備してきた。引き続き委員会及び学生リクエストにより蔵書を整備していく予定。
 - ・ユニバーサルデザインに配慮した設計や機器等の採用や随時LED照明への交換を進めている。
- 大学の危機管理
- ・年2回の職場巡視による敷地内、施設管理等の点検を毎年継続して実施し、必要な措置、改善を行っている。また、事故防止の講習会も毎年実施しており、今後も継続して実施する。
 - ・令和元年度に防災・業務継続計画（BCP）の策定、危機管理マニュアルを改訂し、それらに基づき必要な体制を整備している。
- 人権尊重の推進
- ・毎年ハラスメント研修会、人権研修会を継続して開催しており、引き続き開催する予定。
 - ・学生に対し、講義や実習・研修を通して、人権問題の理解と意識の向上を図っている。
- 情報管理の徹底
- ・令和元年度から情報セキュリティ講習会を毎年実施している。また、情報セキュリティ基本方針等の見直しを実施し、中期計画期間終了時までには改正を行う予定。

【参考：小項目評価の集計結果】

分類	評価対象 項目数	I 実施して いない	II 十分に実施で きていない	III 順調に実施し ている	IV 上回って実施 している
施設・設備の 整備・活用	3				3
危機管理	2			1	1
人権尊重の推進	2			1	1
情報管理の徹底	1				1
合 計	8			2	6

(注) 大項目評価は、Ⅲ及びⅣの比率により決定する。

※ 小項目評価の集計結果では、全ての項目がⅢ又はⅣの評価の場合、A評価（計画どおり進んでいる）となる。

(3) 評価にあたっての意見、指摘等

- 中期計画の達成は問題ない。
- これからも研修等により、教職員だけでなく、学生にも危機管理の意識付けを実施してほしい。
- 本学では令和元年度から情報セキュリティ講習会が毎年実施され、普段から情報セキュリティに取り組んできたことは評価できる。社会情勢の変容も加味しつつ情報セキュリティ基本方針の見直しも続け、物理的・人的・技術的なセキュリティ対策等が適切に機能するよう、今後も改善・改良に取り組むことで令和5年度までの中期計画の達成が見込まれる。

2 全体評価

評価結果と判断理由

評価結果

全体として中期計画が順調に実施されており達成が見込まれる。

判断理由

- ① 大項目のうち「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」についてはS評価（特筆すべき進行状況）であり、「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」、「Ⅳ自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「Ⅴその他業務運営に関する重要目標」についてはいずれの項目もA評価（計画どおり進んでいる）であること。
- ② 「Ⅰ大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関して、学部教育に関するカリキュラムおよび養護教諭養成課程の教育について評価、改善を中期目標期間中に行ってきたしており、令和5年度までに4年間の看護師基礎教育のモデルの評価・改善および養護教諭(一種免許)養成課程の評価・改善する目標が達成できる見込みであること。
COVID-19 感染予防対策の必要性もあり、学習環境のICT化が予定よりも速いペースで進んでおり、学生の情報処理や看護技術の力は高まっていること。また、学生が主体的に学べる教育環境の整備が進んでおり、学生の看護師国家試験合格率100%を継続していること。更には、県内就職率は50%を超え、増加傾向にあること。
- ③ 「Ⅱ業務運営の改善及び効率化に関する目標」に関して、学長を兼ねる理事長が、引き続き強いリーダーシップを発揮し、教員や学外理事等の意見を取り入れ、学内の了解を得ながら改革を推進していること。
- ④ 「Ⅲ財務内容の改善に関する目標」に関して、令和3事業年度終了時点で授業料等の滞納はなく、納付が遅延している学生がいる場合には助言や指導を行い、分割等計画的な授業料納付に導く等の取組を継続することで、中期計画の達成を見込んであること。
科研費申請の学内研修会の実施、外部資金公募情報の周知、レビュアーによる指導等により、4千万円以上の外部資金を獲得できており、継続して外部資金獲得促進に取り組んでいること。

<委員会からのコメント>

- 全体として、中期計画は順調に実施されており、中期計画の達成は問題ないと評価する。
- WITHコロナが常態化する中、これまでの対コロナ対策を踏まえて、中期計画の達成に向け更なる努力を重ねられたい。
- 新型コロナウイルスの影響を受けながらも、臨機応変な対応の結果、コロナ前以上の取組、成果があったことは素晴らしい。
- 令和5年度までの中期計画へもZoomを活用しながらの積極的な情報発信が反映されており、中期計画を十分達成しうる。

【参考：大項目評価の結果】

I 教育研究等 の質の向上	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
II 業務運営の 改善及び 効率化	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
III 財務内容の 改善	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
IV 自己点検 ・評価及び 情報提供	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり
V その他業務 運営	S 特筆すべき 進行状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項あり